

令和6年度 第1回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和6年6月4日（火） 14時00分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 尽力ホール
3. 出席委員 山本忠雄 池谷真也 和田安彦 矢野陵子 鈴木貴子 加藤悦子 小西雅子
室内恵理香（学校支援CD）
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 細川恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援コーディネーター（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 中野有哉（校長） 松島 歩（教頭） 石島正巳（CS担当教員）
柳瀬翔太（生徒指導主事）
8. 教育委員会 井島健蔵（教育総務課）
9. 傍 聴 者 なし
10. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒
11. 議長の選出

司会より議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

12. 協議事項

- (1) 学校運営の基本方針について
- (2) いじめ防止等のための基本的な方針について
- (3) 昨年度の報告、今年度の目標設定
- (4) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

13. 会議記録

司会の教頭より、委員総数8名のうち8名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 今年度の学校運営基本方針について

校長より、別紙資料に基づき説明があり委員全員で再確認した。また、委員からは以下の質問があった。

池谷委員：日本語初期適応浜北教室の申し込み窓口はどこなのか。

校長：窓口は教育支援課。そこから本校に受け入れ要請がくる。

矢野委員：需要があるのでこの浜北北部中に開校したのか。

校長：本校が、沿線上であること、空き教室があるからだと聞いている。

(2) いじめ防止等のための基本的な方針について

生徒指導主事より、別紙資料に基づく説明と、いじめ認知件数についての報告があり、委員からは以下の発言があった。

生徒指導：今年度のいじめ認知件数は現在4件。浜松市全体としても増加傾向にある。本校の多くはSNSのトラブル、言葉遣い、コミュニケーション不足からのいじめが多くみられる。5月に開催したSNS講座等を今後も行いながら認知件数の減少に繋げたい。また、年5回生活アンケートを実施。合わせて2者面談・3者面談で対応している。今年度の新しい取り組みとして6月、校長より命についてのメッセージが追加され、さらには、毎月「こころの天気モニター」と「にこにこの日」を行い、早期発見・早期対応ができるよう、子どもとのコミュニケーションを積極的に行っている。

学校全体としては、校内学びの教室には現在 3 学年で 11 名程度の在籍がある。授業によってはメリハリがつけられなくなる等、課題もある。

小西委員：認知が不登校につながっていることはないのか。男女比や解消後の推移等、もう少し踏み込んだところがあるなら教えてもらいたい。また、認知後、先生たちとの関わりの中で解消とするのか、どのレベルから認知として取り上げられるのか知りたい。

生徒指導：本校ではいじめが原因で不登校になった生徒はいない。ただ、一度受けた傷を完全に癒すことができず、まだ不安を抱えている生徒はおり、継続して取り組んでいる。また、解消のひとつの目安としては、一定期間辛い思いが何もなかった、としている。男子だから女子だからというのはあまり関係ない。いじめの認知は本人への聞き取りの際、本人がいじめと捉えていれば認知、また、本人がいじめではないと申告しても大人である複数の教員がこれはいじめだろう、と捉えた場合は認知報告をしている。

和田委員：保護者への報告はどのタイミングでしているのか。

生徒指導：認知の段階で両者の保護者に報告している。また三者面談等でも経過を報告できるよう常に子供と接するよう心掛けている。

和田委員：保護者への対応と子供の対応を両方やっているということか。

生徒指導：はい。

校長：基本的には、いじめ云々ではなくてもトラブルがあれば即日報告をしている。学校側で預かり整えて、という猶予はない。こんなことがありました、という報告はすぐに連絡するようにしている。

鈴木委員：「こころの天気モニター」という取り組みはとても素晴らしく、きっとそこから吸い上げることはあるだろう。とても有難い。また、「尽力」の提出は毎日ではなくてもよいことになっているのか。学年があげるにつれて提出率が悪くなっていくのはもったいない。吸い上げられるものも吸い上げられないのではないか。そこが改善できればさらに吸い上げられるのではないだろうか。

(3) 昨年度の報告、今年度の目標設定

岡本より学校支援ボランティアについて、昨年度の活動と今年度のスケジュールを報告。

また、R5 年度自己評価の評価項目 4「今年度の目標設定」について簡単に説明した。

山本会長：学校支援ボランティアのお手伝いをしていただける方を一人でも増やしていきたい。また、作成した CS だよりは画面媒体の考え方もあるが、紙媒体も捨てがたい伝達力ではないかと個人的に思う。

教育委員会：ここでは、評価項目 4 の内容を個人的な目標ではなく、この運営協議会として今年度の目標となるよう、少し内容を絞るなど熟議していただけたらと思う。

池谷委員：より具体的な目標にするのか、抽象的でよいのか。会長挨拶で各論が 3 つあったが具体的な目標をあげるなら実現可能な内容を表しておくとか分かりやすいのではないか。

教育委員会：ポイントを絞ってしまうよりは、大きく捉えながら広めに書く方が全てに対応できるのではないかと思う。大きく捉えながらみなさんと絞り込んでいただけたらと思う。

山本会長：本日考え方は捉えた。挨拶運動、学校支援ボランティア活動への参加、代表生徒とのコミュニケーション対談の 3 つを持っている。次回協議会までには明文化して提示したものを皆さんで共通理解する、ということにさせていただきたい。

教頭より、夢育やらまいか事業に対する意見書についての説明と、今年度の運営協議会のスケジュールを確認し、会を閉じた。